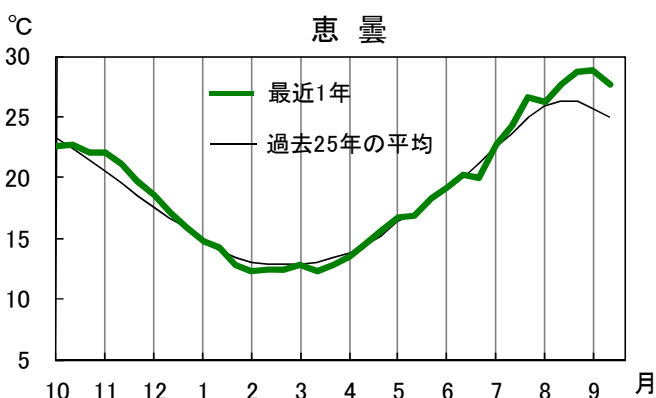
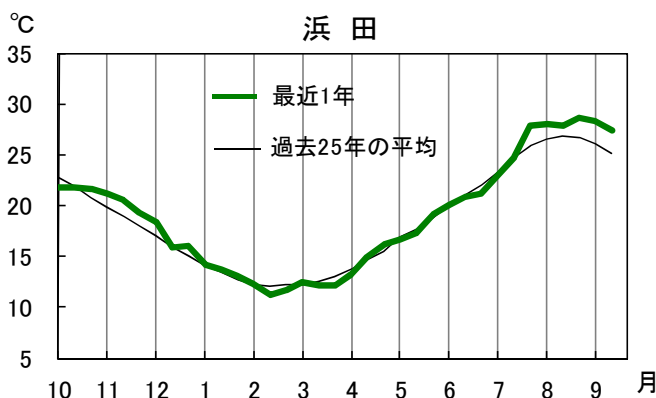




《8～9月の海況》

8月	月平均	平年差	評価
浜田	28.2℃	+1.5℃	やや高め
恵曇	27.6℃	+1.4℃	やや高め

沿岸定地水温は、浜田地区では8月は「平年並み～やや高め」で推移し、9月に入り中旬までは「かなり高め」で経過しています。恵曇地区は、8月は上旬が「平年並み」でしたが、中旬は「やや高め」、下旬以降9月中旬時点まで「かなり高め」で経過しています。



《8月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年並みとなりました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ、ブリ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。マアジ及びブリの漁獲量は、どの地区においても平年を下回り、サバ類の漁獲量は各地区において平年並みから平年を上回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ主体（全体の96%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は94kgで平年を下回りました。西郷地区（属人5トン以上）でもケンサキイカ主体（全体のほぼ100%）の漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は58kgで平年を下回りました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は6.5トンで、前年の5割、平年（過去10年平均）の6割の水揚げに止まりました。全体的に低調に推移し、この時期にまとまった漁獲のあるムシガレイは平年の5割、ケンサキイカの8割の水揚げに留まりました。一方、キダイ、カワハギ類、マダイは平年の1.5倍の水揚げとなりました。

【バイかご漁業】

石見地区の総漁獲量は20.3トンで、平年を12%上回りました。漁獲対象であるエッチュウバイは銘柄「大」が漁獲の主体となっており、漁獲量は17.4トン、1隻1航海あたりの漁獲量は561kgで、前年を22%、平年を38%上回りました。

【シイラまき網漁業】

6月から始まった石見地区のシイラまき網漁業はシイラ主体の漁況で、1隻1航海当たりの総漁獲量は955kgと平年の7割となりました。シイラの漁獲量は平年の4割、ヒラマサは5割となりましたが、カワハギの漁獲量が平年の2.5倍となりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ、マアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はマアジが平年の4割、ケンサキイカが8割であったものの、サワラ類が1.5倍となり、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。出雲地区ではサワラ、マアジ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はサワラが平年の6割、マアジが5割、ブリが1割に留まり、全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ主体の漁況で、1統当りの漁獲量はケンサキイカが平年の1.5倍だったものの、マアジが3割、ブリが2割に留まり、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、メダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年並みでした。出雲地区ではケンサキイカが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は23kgで平年並みでした。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、マダイ、キダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は24kgで平年を上回りました。

【平成 24 年 8 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量)			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	サバ類、マアジ	181トン	51%	41%	9.6トン	84%	95%	○
	西郷	マアジ、ブリ	1,144トン	51%	41%	14.5トン	62%	46%	▲
	浦郷	マアジ	489トン	39%	33%	9.2トン	39%	32%	▲
イカ釣り (5トン以上)	浜田	ケンサキイカ	20トン	153%	23%	94 kg	125%	48%	▲
	西郷	ケンサキイカ	16トン	68%	80%	58 kg	66%	70%	▲
バイかご	大田管内	エッチュウバイ	33トン	120%	82%	667kg	108%	107%	◎
シイラまき	和江	シイラ	15トン	62%	26%	808 kg	107%	71%	○
定置網 (大型)	浜田	サワラ類、ケンサキイカ	12トン	69%	55%	537 kg	125%	92%	○
	美保関	サワラ類、マアジ	43トン	66%	50%	439 kg	64%	47%	▲
	浦郷	シイラ、ケンサキイカ	9トン	48%	70%	340 kg	46%	60%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ、メダイ	16トン	75%	81%	28 kg	74%	78%	○
	大社	ケンサキイカ、メダイ	5トン	69%	82%	13 kg	70%	89%	○
	西郷	ケンサキイカ、カサゴ・メバル類、メダイ	11トン	78%	79%	29 kg	95%	92%	○

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

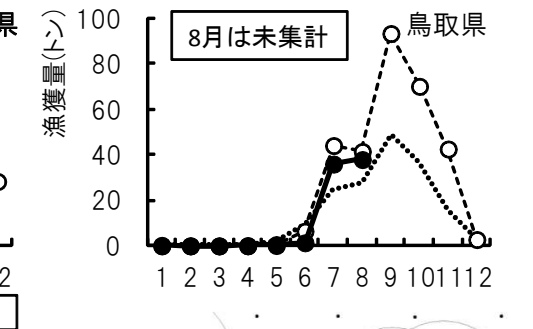
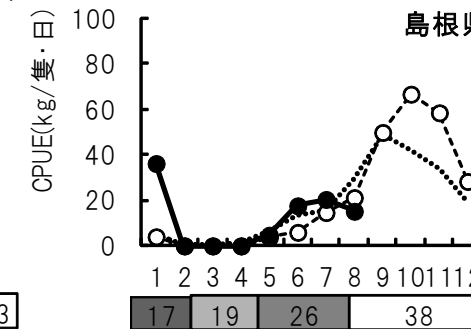
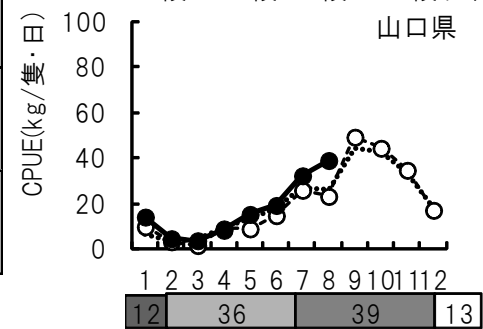
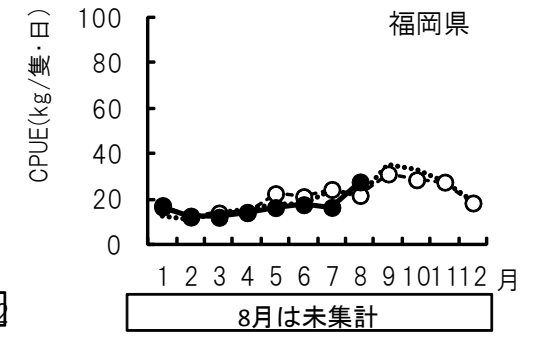
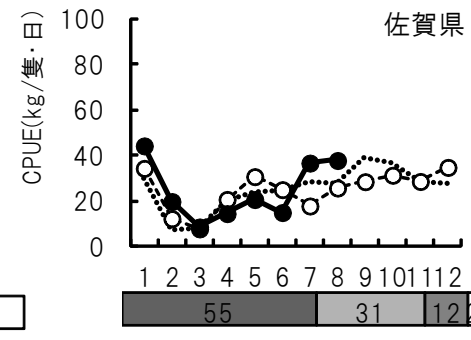
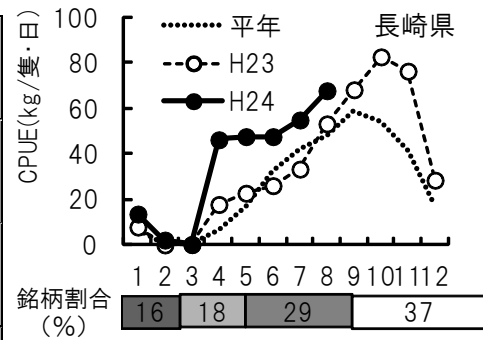
【ケンサキイカ情報】

長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名:マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I:8月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

鳥取県	ほぼ前月と同じ漁獲量で、前年並み、 平年を50%以上上回る漁獲量となりました。
島根県	主要7港の水揚量は76トンで、前年・平 年を下回りました(前年比72%、平年比 55%)。
山口県	漁獲量は前年比97%、平年比80%で、 前年・平年並みでした。
福岡県	漁獲量は前年比98%、平年比114% と、前年並で平年を上回りました。
佐賀県	漁獲量は前年比119%、平年比137% と、前年・平年を上回りました。
長崎県	漁獲量は前年、平年を上回りました。 (前年比127%、平年比142%)



※平年は過去5年(H19~H23)の平均値

II:9月上旬の底層水温

鳥取県	100m以浅の底層水温は17℃以上ありました。
島根県	陸棚上の底層水温は、温泉津沖は2~7℃でやや低め、高山沖は3~20℃でやや低め~平年並みでした。
山口県	見島より沿岸域では17~24℃(平年並み~かなり高め)、沖合域では5~23℃でした。
福岡県	沿岸域は、24~26℃台とやや高め~かなり高めとなっています。沖合域は、底層で15~21℃台とやや低め~かなり高め となっています。
佐賀県	対馬東水道の底層水温は、15.7~25.3℃でした。壱岐水道の底層水温は26.3~26.5℃でかなり高めとなりました。
長崎県	五島西沖の底層水温は15~23℃台で、やや低めで推移しました。

